

おはようございます。早いもので、3月に入りました。時の経つのは早いですね。

今日は、少しお話しが難しいかもしれませんが、特に卒業生はよく聞いてください。今日から、校長先生は6年生を卒業生と呼びますね。

お話は「人生3分の1説」という話です。

「人生3分の1説」とは、「一生を1日とみたとき、年齢を3で割った数字が人生の時刻を表す」という説です。例えば、15才の人は、 $15 \div 3 = 5$ となりますから、その人は、一生を1日としたとき、5時つまり朝の5時の時点にいるということになります。

ちなみに校長先生は、55才ですが、割り切れるように54とします、 $54 \div 3 = 18$ となり、18時、つまり午後6時の時点にいることとなります。あと6時間の命です。

卒業生は12才ですから、 $12 \div 3 = 4$ で午前4時の時点にいることとなります。まだまだ命はありそうですね。

みなさんは、私よりも多くの時間を持っています。とは言っても、みなさんの時間は無限ではなく有限です。有限という点においては、みなさんも校長先生といっしょです。

先生はこの「人生3分の1説」を知ったとき、少しショックでした。でも、そのことで、一日一日をもっと大切にしようと、考えるようになった気がします。

ダーウィンという人は

一時間の無駄遣いを何とも思わない人は、  
人生の価値をまだ発見していない

(ダーウィン 進化論)

と言っています。「人生3分の1説」にしても、この言葉にしても、一日一日、1時間1時間を大切にすることの重要性を君たちに教えています。

みなさんが卒業や、進級するまでにもうあと少ししか時間がありません。一日一日を大切にしてください。

毎回、

「室内で静かにしてください。」

とか

「廊下を走らないでください。」

なんて、注意を受けないように 1年のまとめの月に相応しい暮らしにしてください。